



令和5年1月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

令和4年6月10日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 東  
 コード番号 9636 URL <https://www.kin-ei.co.jp/>  
 代表者 (役職名)取締役社長 (氏名)田中 耕造  
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員経理部長 (氏名)藤下 修 (TEL)06(6632)4553  
 四半期報告書提出予定日 令和4年6月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年1月期第1四半期の業績(令和4年2月1日～令和4年4月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年1月期第1四半期	782	2.9	48	△20.8	52	△20.9	47	11.7
4年1月期第1四半期	760	16.6	61	—	66	—	42	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年1月期第1四半期	16.91	—
4年1月期第1四半期	15.14	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
5年1月期第1四半期	5,682	2,241	39.4
4年1月期	5,770	2,221	38.5

(参考) 自己資本 5年1月期第1四半期 2,241百万円 4年1月期 2,221百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年1月期	—	0.00	—	10.00	10.00
5年1月期	—	—	—	—	—
5年1月期(予想)	—	0.00	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和5年1月期の業績予想(令和4年2月1日～令和5年1月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,620	12.6	60	△35.6	60	△43.6	40	△13.7	14.34
通期	3,360	12.0	160	18.4	160	0.6	90	△16.7	32.27

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	5年1月期1Q	2,821,000株	4年1月期	2,821,000株
② 期末自己株式数	5年1月期1Q	32,493株	4年1月期	32,428株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	5年1月期1Q	2,788,540株	4年1月期1Q	2,788,572株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期貸借対照表	3
(2) 四半期損益計算書	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(会計方針の変更)	6
(追加情報)	6
(四半期損益計算書関係)	6
(セグメント情報等)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

文中における将来に関する事項は、当第1四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和される一方、ウクライナ情勢に伴う不透明感に加え、原材料価格の上昇、供給面での制約など下振れリスクが増すうちに推移しました。

この間当社におきましては、当社施設を通じた新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、種々の対策を徹底、継続しました。その上で、周辺大型商業施設とのタイアップイベント実施等によるあべのアポロシネマへの集客に努めるとともに、アポロビル・ルシアビルにおける空室部分への後継テナント誘致に注力しました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、“劇場版 名探偵コナン ハロウィンの花嫁”“余命10年”“劇場版 呪術廻戦 0”“S I N G / シング：ネクストステージ”“ファンタスティック・ビーストとダンブルドアの秘密”などの話題作を上映する一方、感染予防対策を徹底した上で販売促進活動を推進した結果、収入合計は282,149千円（前年同期比10.3%増）で前年同期からは増収となりましたが、営業原価控除後のセグメント損失は891千円（前年同期セグメント損失2,311千円）となりました。

不動産事業部門におきましては、感染拡大に伴う空室発生等のため、このセグメント全体の収入合計は499,915千円（前年同期比0.9%減）となり、セグメント利益は120,565千円（前年同期比12.8%減）となりました。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高合計は782,064千円（前年同期比2.9%増）となり、費用面におきましては、部門別業績管理の徹底により、諸経費全般に亘って鋭意抑制しましたが、修理費等が増加した結果、営業利益は48,843千円（前年同期比20.8%減）となり、経常利益は52,317千円（前年同期比20.9%減）、四半期純利益は47,165千円（前年同期比11.7%増）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末における総資産は、有形固定資産の減少等により前期末に比較して88,447千円減少し、5,682,247千円となりました。負債は、設備関係未払金の減少等により、前期末に比較して107,981千円減少し、3,441,197千円となりました。純資産は、四半期純利益など利益剰余金の増加額が配当金の支払い等による減少額を上回ったため、前期末に比較して19,534千円増加し、2,241,049千円となりました。

### (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和5年1月期の業績予想につきましては、令和4年3月17日に「令和4年1月期決算短信（非連結）」にて公表した業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (令和4年1月31日)	当第1四半期会計期間 (令和4年4月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	84,524	125,232
売掛金	118,700	-
売掛金及び契約資産	-	128,653
商品	3,455	4,183
その他	566,313	504,419
貸倒引当金	△771	△560
流動資産合計	772,223	761,928
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,848,082	2,788,298
機械及び装置(純額)	29,159	27,485
工具、器具及び備品(純額)	98,684	90,213
土地	1,123,748	1,123,748
有形固定資産合計	4,099,674	4,029,745
無形固定資産	59,643	52,295
投資その他の資産		
差入保証金	801,958	801,958
その他	37,194	36,319
投資その他の資産合計	839,153	838,277
固定資産合計	4,998,471	4,920,318
資産合計	5,770,694	5,682,247
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	102,917	111,593
短期借入金	450,000	450,000
1年内返済予定の長期借入金	75,000	75,000
未払法人税等	42,552	24,159
賞与引当金	5,400	11,600
その他	582,754	505,760
流動負債合計	1,258,624	1,178,112
固定負債		
長期借入金	393,750	375,000
退職給付引当金	72,196	73,584
受入保証金	1,529,907	1,520,572
資産除去債務	290,000	290,000
その他	4,700	3,927
固定負債合計	2,290,554	2,263,084
負債合計	3,549,178	3,441,197

(単位：千円)

	前事業年度 (令和4年1月31日)	当第1四半期会計期間 (令和4年4月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,741,439	1,760,719
自己株式	△110,884	△111,080
株主資本合計	2,218,910	2,237,994
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	2,604	3,055
評価・換算差額等合計	2,604	3,055
純資産合計	2,221,515	2,241,049
負債純資産合計	5,770,694	5,682,247

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 令和3年2月1日 至 令和3年4月30日)	当第1四半期累計期間 (自 令和4年2月1日 至 令和4年4月30日)
売上高	760,130	782,064
営業原価	624,136	662,391
営業総利益	135,993	119,673
一般管理費	74,306	70,830
営業利益	61,686	48,843
営業外収益		
受取利息	207	352
違約金収入	-	4,833
助成金収入	4,955	-
雑収入	1,424	45
営業外収益合計	6,588	5,230
営業外費用		
支払利息	2,122	1,754
雑支出	0	1
営業外費用合計	2,123	1,756
経常利益	66,151	52,317
特別利益		
休業等の要請に伴う協力金	-	※1 16,080
特別利益合計	-	16,080
特別損失		
固定資産除却損	89	255
臨時休館に伴う損失	※2 3,908	-
特別損失合計	3,997	255
税引前四半期純利益	62,154	68,142
法人税、住民税及び事業税	22,271	21,747
法人税等調整額	△2,325	△770
法人税等合計	19,945	20,977
四半期純利益	42,208	47,165

### (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下、「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しております。収益認識会計基準を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「売掛金」は、当第1四半期会計期間より「売掛金及び契約資産」に含めて表示することとしました。なお、収益認識会計基準第89-4項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(新型コロナウイルス感染症拡大に伴う会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症拡大は、依然として予断を許さない状況であります。このような状況が当事業年度(令和5年1月期)においても一定程度残るものと仮定しており、当該仮定を会計上の見積り(繰延税金資産の回収可能性、固定資産の減損会計等)に反映した結果、四半期財務諸表に与える影響はありませんでした。

なお、現時点で入手可能な情報に基づいて最善の見積りを行っておりますが、今後の実際の推移がこの仮定と乖離する場合には、当社の経営成績及び財政状態に影響を与える可能性があります。

(四半期損益計算書関係)

※1 休業等の要請に伴う協力金

当第1四半期累計期間(令和4年2月1日から令和4年4月30日まで)

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた大阪府からの休業等の要請に応じたことによる協力金を、休業等の要請に伴う協力金として特別利益に計上しております。

※2 臨時休館に伴う損失

前第1四半期累計期間(令和3年2月1日から令和3年4月30日まで)

新型コロナウイルス感染症拡大による政府の「緊急事態宣言」及びこれを受けた大阪府の「緊急事態措置」に基づき、令和3年4月25日から「あべのアポロシネマ」ほか該当施設の臨時休館を実施しました。当該臨時休館中に発生した固定費等(減価償却費ほか)に臨時性があると判断し、臨時休館に伴う損失として特別損失に計上しております。



(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第1四半期累計期間(令和3年2月1日から令和3年4月30日まで)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	255,819	504,310	760,130	—	760,130
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	255,819	504,310	760,130	—	760,130
セグメント利益又は損失(△)	△2,311	138,304	135,993	△74,306	61,686

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

## II 当第1四半期累計期間(令和4年2月1日から令和4年4月30日まで)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期 損益計算書 計上額 (注) 2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
劇場収入	255,855	—	255,855	—	255,855
ビル共益費等収入	—	99,531	99,531	—	99,531
娯楽場及びその他事業収入	26,294	5,455	31,749	—	31,749
顧客との契約から生じる収益	282,149	104,986	387,135	—	387,135
その他の収益	—	394,929	394,929	—	394,929
外部顧客への売上高	282,149	499,915	782,064	—	782,064
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	282,149	499,915	782,064	—	782,064
セグメント利益又は損失(△)	△891	120,565	119,673	△70,830	48,843

(注) 1 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。